

歩行指導員の統計的現状と昭和59年度歩行 指導員養成講習会（第14期）研究論文から

日本ライトハウス
芝田 裕一

I 歩行指導員の統計的現状

第14期歩行指導員養成講習会は（日本ライトハウスが厚生省の委託で実施）昭和59年8月6日から同年12月12日まで実施された。第14期の受講生は13名であり、この結果、現在までの受講生総数は表1に示すとおり、196名となった。ただ、この196名の中の50名

（台湾からの参加者2名も含む）は、現在なんらかの理由で視覚障害関係（施設あるいは学校等）の業務からはなれており（日本ライトハウス調べ）、残り146名についてその分布を地方・都道府県別にあらわしたものが表2である（昭和60年10月1日現在）。

表2 地方・都道府県別受講者数

地方・都道府県	受講者数	地方・都道府県	受講者数
北海道地方 (計4)		近畿地方 (計43)	
北海道	4	滋賀	0
東北地方 (計4)		京都	9
青森	2	奈良	1
秋田	0	大阪	25
岩手	0	和歌山	1
山形	0	兵庫	7
宮城	0	中国地方 (計7)	
福島	2	鳥取	2
関東地方 (計61)		島根	0
茨城	0	岡山	1
群馬	0	広島	2
栃木	10	山口	2
埼玉	15	四国地方 (計4)	
埼玉	15	徳島	3
千葉	4	香川	1
東京	11	愛媛	0
神奈川	18	高知	0
山梨	3	九州地方 (計17)	
中部地方 (計6)		福岡	5
新潟	0	大分	1
長野	0	宮崎	1
富山	0	佐賀	0
石川	0	長崎	6
福井	3	熊本	1
静岡	2	鹿児島	1
岐阜	0	沖縄	2
愛知	1		
三重	0		
視覚障害関係以外			50
総計		総計	196

表1 期別受講者数

期及び開講年	受講者数
第1期(1970・S45)	12
第2期(1972・S47)	13
第3期(1973・S48)	14
第4期(1974・S49)	14
第5期(1975・S50)	22
第6期(1976・S51)	16
第7期(1977・S52)	16
第8期(1978・S53)	14
第9期(1979・S54)	10
第10期(1980・S55)	14
第11期(1981・S56)	16
第12期(1982・S57)	10
第13期(1983・S58)	12
第14期(1984・S59)	13
合計	196

表 3 施設・学校等別受講者数

施設・学校別	所在地	受講者数	施設・学校別	所在地	受講者数
A 一般施設		(計64)	栃木県こがし学園	栃木	3
日本ライトハウス	大阪	9	山梨県立青い鳥福祉センター	山梨	1
神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢ライトホーム	神奈川	7	青い鳥学園	福島	1
大阪府盲人福祉協会	大阪	4	福島県光風学園	神奈川	2
大阪市身体障害者団体協議会	大阪	2	横浜訓盲院	長崎	6
荒川区立心身障害者福祉センター	東京	2	長崎県立啓明寮	鳥取	2
東京都心身障害者福祉センター	東京	2	鳥取県立積善学園	山口	2
神奈川県ライトセンター	神奈川	2	山口県光林園		
川崎市福祉センター	神奈川	2	D 盲学校 (計28)		
光道園	福井	3	筑波大学付属盲学校	東京	3
聖光学園	広島	2	大阪府立盲学校	大阪	4
京都ライトハウス	京都	9	大阪市立盲学校	大阪	3
東京光の家	東京	2	千葉県立千葉盲学校	千葉	4
日本盲導犬協会	東京	1	和歌山県立和歌山盲学校	和歌山	1
福岡市立心身障害福祉センター	福岡	2	大分県立盲学校	大分	1
神奈川県職業相談センター	神奈川	1	栃木県立盲学校	栃木	2
沖縄盲人福祉会	沖縄	2	青森県立盲学校	青森	2
全国パーチェット協会	埼玉	1	神戸市立盲学校	兵庫	2
北海道盲導犬協会	北海道	1	横浜市立盲学校	神奈川	2
埼玉県障害者リハビリテーションセンター	埼玉	5	宮崎県立盲学校	宮崎	1
鹿児島県身体障害者福祉協会	鹿児島	1	神奈川県立平塚盲学校	神奈川	1
東京都失明者更生館	東京	1	香川県立盲学校	香川	1
山梨県立青い鳥福祉センター成人寮	山梨	2	奈良県立盲学校	奈良	1
特別養護老人ホーム玉川ホーム	福島	1	E その他 (計7)		
B 国立施設		(計26)	ジオム社	大阪	1
函館視力障害センター	北海道	3	静岡県済生会病院	静岡	2
塩原視力障害センター	栃木	5	豊中市役所(福祉課)	大阪	1
国立身体障害者リハビリテーションセンター	埼玉	9	聖霊病院	愛知	1
神戸視力障害センター	兵庫	5	高槻市教育委員会	大阪	1
福岡視力障害センター	福岡	3	安全交通試験研究センター	岡山	1
国立特殊教育総合研究所	神奈川	1	視覚障害関係以外(含台湾) (計50)		
C 盲児施設		(計21)	総合計 196		
熊本ライトハウス	熊本	1			
徳島ライトホーム	徳島	3			

また、表3はその146名を「一般施設」、「国立施設」、「盲児施設」、「盲学校」、「その他」の各グループに大別し、その各施設・学校等別に指導員数をあらわしたものである（昭和60年10月1日現在）。

第13期（昭和58年度）終了時点で、視覚障害関係の業務から離れている者（視覚障害関係以外）は、総受講者183名中、41名（22%）であったが、第14期（昭和59年度）終了時点（10月1日現在）では、それが、196名中50名（26%）と増加している。表4は、現在、視覚障害関係の業務から離れている受講者数とその期の受講者総数で除した百分率を期別にあらわしたものである。昨年度は、第14期生、13名の養成を行なったが、指導員の実質増はわずか4名である。その大きな理由として転勤、配属がえ等が考えられるが、我国のリハビリテーションの伸び悩みの一端を端的に表している数字であると言えよう。

表4 視覚障害関係以外の受講者数（期別）

期	人数	%
第1期	3	25
第2期	3	23
第3期	3	21
第4期	7	50
第5期	8	36
第6期	6	38
第7期	4	25
第8期	5	36
第9期	3	30
第10期	2	14
第11期	2	13
第12期	2	20
第13期	1	8
第14期	1	8
合計	50	26

Ⅱ 第14期研究論文から

次に、第14期生が課題の一つとして作成した研究論文の中から2つを選んで記載する。なお、この論文の題目は各受講生が任意に選択したものである。

1. 歩行訓練場面における心的飽和現象
2. 盲学校における漢字指導の必要性について